



**Kodak**

## i2900 スキャナー

ISIS アプリケーション用  
スキャンセットアップガイド

# ISIS ドライバの使用

---

## 目次

Scan Validation Toolの起動 .....	2
イメージ設定の実行 .....	4
[メイン] タブ .....	6
[レイアウト] タブ .....	8
[スキャン領域] ダイアログボックス .....	9
[イメージ処理] タブ .....	11
[カラーの自動検知] タブ .....	13
[ドロップアウト] タブ .....	15
[調整] タブ .....	16
[イメージの端を埋める] タブ .....	18
[ブランクイメージ検出] タブ .....	19
[バージョン情報] タブ .....	20
スキャナー設定の実行 .....	20
[スキャナー] タブ .....	21
[重層検知] タブ .....	23
[インプリンタ] タブ .....	25
[ログ] タブ .....	27

コダック i2900 スキャナーのイメージ処理機能を使用すると、高画質のスキャン画像が取得できます。

**イメージ処理**とはそれぞれのイメージに対して給紙の傾き調整や不要な粹消し、イメージのノイズ除去などスキャン画像の質を自動的に向上させる機能のことです。

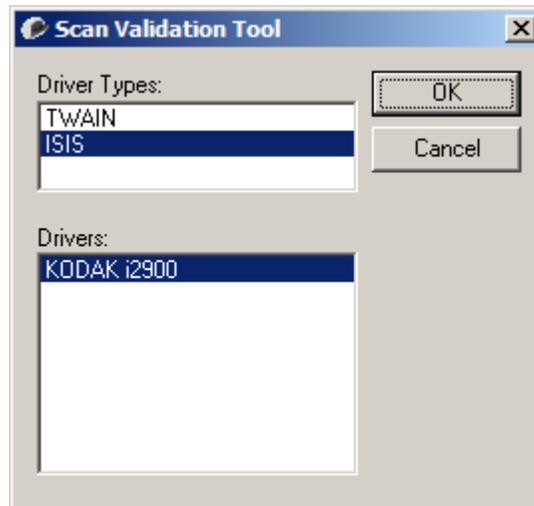
ISIS ドライバは、スキャナーと通信を行うソフトウェアです。このドライバはEMC Captivaによって製作、保守され、コダックがスキャナーに同梱しています。このドライバはISIS ドライバをサポートする多数のスキャンアプリケーションを接続するために使用されます。

本ガイドではISIS ドライバウィンドウのタブの機能について説明します。これらの機能は、使用しているスキャンアプリケーション（コダックキャプチャソフトウェアなど）のユーザインターフェイスでも選択できます。

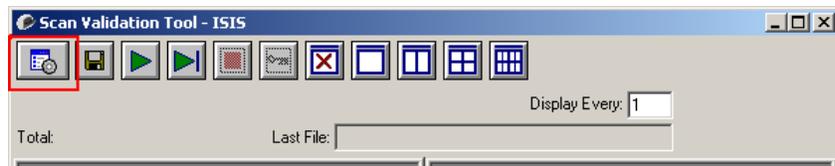
## Scan Validation Tool の起動

注： Scan Validation Toolはコダックにより提供される診断ツールです。  
コダックはScan Validation Toolをスキャンアプリケーションとして  
使用することをサポートしません。

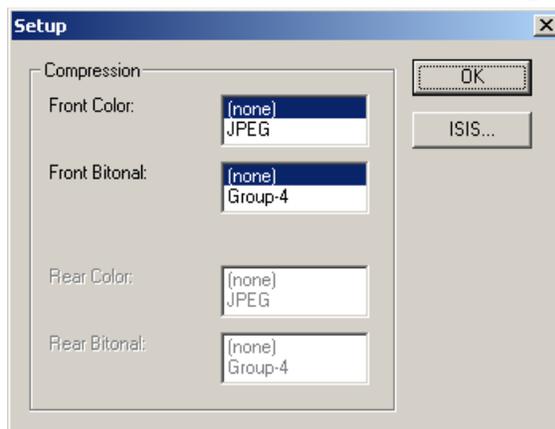
1. [スタート] > [プログラム] > [Kodak] > [Document Imaging] > [Scan Validation Tool] を選択します。



2. ドライバタイプとして [ISIS] を選択し、ドライバとして [KODAK i2900] を選択してから、[OK] をクリックします。
3. イメージ表示パネルを有効化するために  アイコンをクリックします。
4. Scan Validation Toolのメイン画面で [セットアップ] アイコンを選択します。

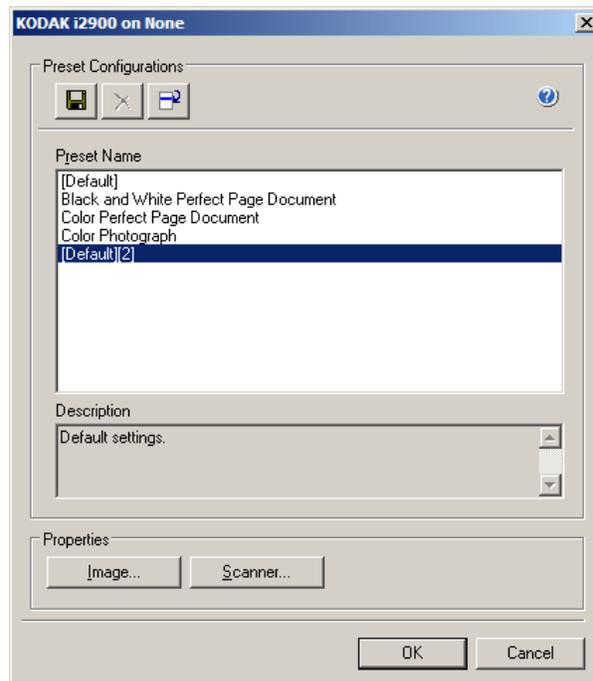


[セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



5. **[ISIS]** をクリックします。**[プリセット設定]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには保存されたドライバ設定のリストを選択できます。

プリセットは保存、削除、インポートが可能で、既存のプリセットか変更するプリセットを選択できます。



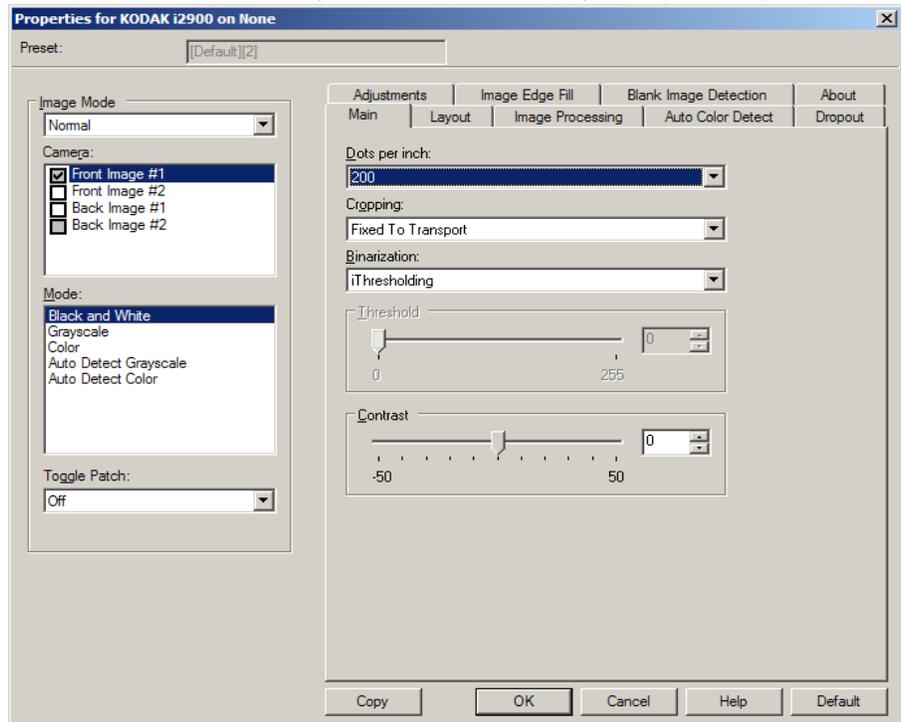
6. **[イメージ]** をクリックすると、イメージ関連の設定ができます。

以降の章ではイメージ設定の詳細や手順について説明します。スキャナー設定の手順については、後述の「スキャナー設定の実行」を参照ください。

## イメージ設定の実行

ISIS ドライバのメインウィンドウにはイメージ設定に使用するタブがあります。スキャンの目的やニーズに合わせて、これらのタブを使ってオプションを設定できます。

注：（メイン、レイアウト、イメージ処理など）すべてのイメージタブでは**イメージモード、カメラ、モード、およびカラーパッチ**が選択可能です。



**イメージモード** - 次のいずれかのオプションを選択します。

- **標準** - 通常は1枚の原稿につき、表面に対して1つのイメージが作成され、裏面に対して別のイメージが作成されます。表面と裏面のそれぞれに一つずつ別のイメージを作成する場合に選択します。
- **結合** - このオプションを有効にすると、原稿の表面と裏面を1つのイメージに結合します。**イメージ結合**では次のオプションを選択できます。

- [表面を上]、[表面を下]、[表面を左]、[表面を右]

**カメラ** - イメージでスキャン可能な面（表面および裏面）が一覧表示され、それぞれの面でイメージ処理値を定義できます。オプションには、**[表面イメージ1]**、**[表面イメージ2]**、**[裏面イメージ1]**、**[裏面イメージ2]** があります。

**コダックスキャナーのドライバ**では、カメラ設定を個別に設定できます。白黒イメージに適用される設定や、カラー/グレースケールイメージに適用される設定があります。

**モード** - 次のバッチスキャンモードの1つを選択します。

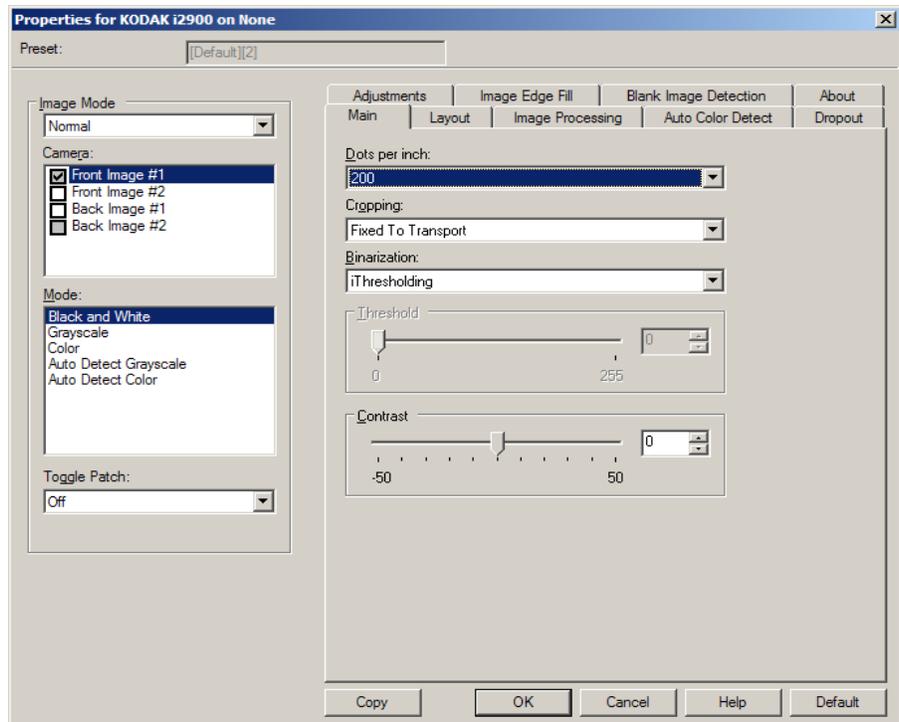
- **白黒** : 白黒の2階調で構成したイメージを作成する場合に選択します。
- **グレースケール** : グレースケールでイメージを作成する場合に選択します。
- **カラー** : イメージをカラーにする場合に選択します。
- **グレースケールの自動検知** : カラーの自動検知をグレースケール用に設定します。詳細は「[カラーの自動検知] タブ」を参照してください。
- **カラーの自動検知** : カラーでカラーの自動検知を設定します。詳細は「[カラーの自動検知] タブ」を参照してください。

**トグルパッチ** - トグルパッチに依存 : カラーパッチの原稿によって、カラー/グレースケールから白黒のスキャンに切り替わります。

- **オフ** : パッチは使用されません。
- **片面** : パッチシートを認識する片面のみ切り替わります。
- **両面** : パッチは両面で認識されます。

**ボタン** - ウィンドウ下部にあるボタンは、すべてのタブに対して適用されます。

- **コピー** - 両面原稿をスキャンする場合に使用できます。片面のカラー、グレースケール、白黒イメージの設定を定義してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容を裏面にコピーすることができます。たとえば、[表面イメージ#1] を設定してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容を [裏面イメージ#1] にコピーできます。
- **OK** - すべてのタブ上で設定された内容を保存します。
- **キャンセル** - 変更内容を保存せずにウィンドウを閉じます。
- **ヘルプ** - 選択されたウィンドウに示されているオプションについてのオンラインヘルプを表示します。
- **デフォルト** - タブの値をデフォルト設定に復元します。



**1インチあたりのドット数 (dpi) および解像度** - スキャンする際の解像度を指定します。この設定はスキャンしたイメージの品質に大きく影響します。解像度を大きくすると、画質が良くなります。ただし、高い解像度でスキャンすると、スキャンに要する時間が長くなり、ファイルサイズが大きくなります。

解像度はドロップダウンリストから選択します。デフォルトは200dpiです。100、150、200、240、250、300、400、600、1200dpiに設定できます。

**クロッピング** - スキャン原稿の一部を切り取ります。クロッピングオプションは、カラー/グレースケール、白黒イメージですべて使用できます。表面と裏面のクロッピングを個別に設定できますが、同時出力スキャンの場合は、カラー/グレースケールクロッピングと白黒クロッピングを読み取り面ごとに同じ値に設定する必要があります。クロッピングオプションは、1イメージに対して1つだけ適用可能です。

- **自動**：イメージの端に合わせて、異なる原稿サイズのクロッピングウィンドウを自動的に調節します。
- **アグレッシブ**：イメージの端に黒の外枠がある場合、それを除去します。この場合、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。
- **ガイド幅に合わせる**：(同じサイズの原稿をまとめてスキャンする場合) イメージとして出力する領域を定義できます。[ガイド幅に合わせる] クロッピングは、用紙サイズとページレイアウトと組み合わせて、原稿を中央に揃えてスキャンする場合に使用します。中央揃えを使用しない場合は、[レイアウト] タブでスキャン領域を設定する必要があります。詳細については、後述の「[レイアウト] タブ」を参照ください。

- **ドキュメントに合わせる**：(同一サイズの複数ページの原稿に使用) - ゾーンプロセッシングは、原稿の左上隅からレイアウトを設定する浮動固定クロップウィンドウ (ゾーン) です。そのゾーンをカラー/グレースケールで処理するか、白黒で処理するか選択できます (白黒とカラー/グレースケールを別のウィンドウに定義することもできます)。パラメータは、イメージの表面と裏面でそれぞれ選択できます。

このオプションは、ある部分をカラー/グレースケールまたは白黒で別々に保存したい場合、自動クロッピングと同時に使用します。写真、署名、エンボス (浮き出し)、印章など、対象となる部分が一定の場所に配置されている場合に大変効果的です (対象の小さい部分をカラー/グレースケールでスキャンし、残りの部分を白黒でスキャンする場合など)。ゾーンを定義するには、[レイアウト] タブを選択します。

**バイナリゼーション** - これらのオプションは、グレースケールイメージに適用され、白黒のイメージを出力します。背景色や濃度が異なっていたり、前景情報の色や濃度が異なっても、背景情報から前景情報を区別できるところに特長があります。同じ画像処理パラメータを使用してさまざまなタイプの原稿をスキャンでき、優れたスキャンイメージを得ることができます。

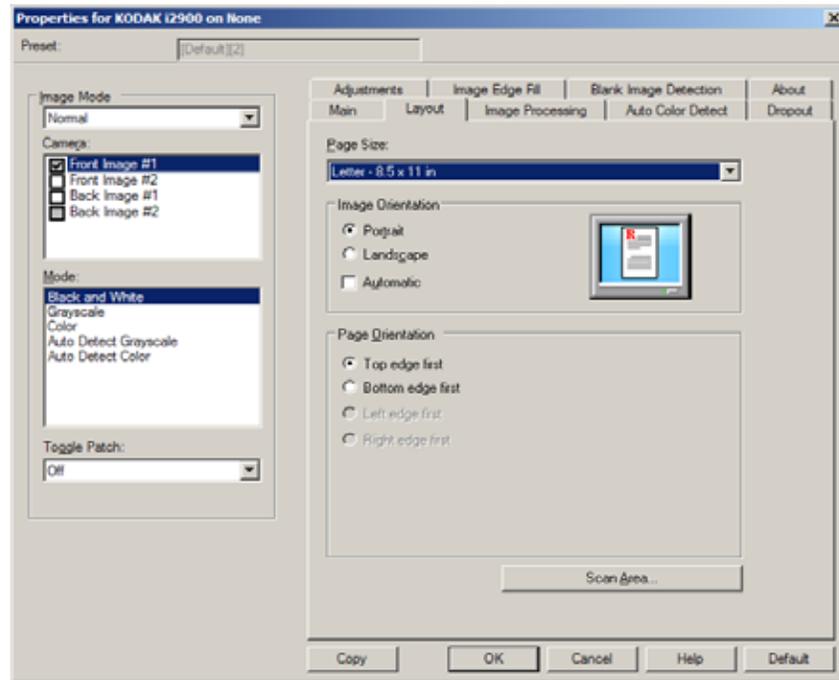
- **iThresholding** : 高品質のイメージを生成するために、原稿を自動的に識別して、最適なしきい値 (スレッシュホールド) が決定されます。単一の設定で画質が異なる原稿 (文字のかすれ、濃淡のある背景、カラーの背景など) をスキャンすることができ、原稿を仕分けする手間を省くことができます。iThresholding を使用する場合は、[コントラスト] のみ調整可能です。
- **固定処理 (FP)** : 白黒および他の高コントラスト原稿に使用します。[固定処理 (FP)] を選択した場合は、[明度] のみ調整可能です。
- **アダプティブしきい値 (ATP)** : イメージの前景情報 (文字、グラフィック、線など) を背景情報 (白または白以外の用紙の背景) と区別します。アダプティブしきい値を使用する場合は、[スレッシュホールド] と [コントラスト] を調節できます。類似する書類タイプをスキャンする場合にこのオプションを使用します。

**スレッシュホールド (明度)** - このオプションは [固定処理] または [アダプティブしきい値 (ATP)] を選択すると使用できます。このオプションを使用すると白黒イメージ明暗を調整できます。スレッシュホールドが高いほどイメージの色が暗くなります。スライダを使って、0 ~ 255 の範囲の値を設定してください。デフォルト値は 90 です。

**コントラスト** - 出力イメージの細部のディテールの強調レベルを調整できます。コントラスト値を高くすると、細部のディテールが強調されます。コントラスト値を低くすると、出力イメージはより鮮明 (少ないディテール) になります。コントラスト値を高く設定しすぎると、出力イメージに不要な線や、色が濃くなりすぎたりする場合があります。コントラスト値を低く設定しすぎると、出力イメージに必要な線や文字などが表示されない場合があります。-50 ~ 50 までの値を選択します。デフォルト値は 50 です。

## 【レイアウト】 タブ

【レイアウト】 タブには、以下のオプションがあります。



**用紙サイズ** - スキャナーが最初に選択されたときのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから各用紙サイズを選択できます。**【自動】** または **【アグレッシブ】** クロッピングオプションを使用する際は、用紙サイズをスキャナーの**最大値**に設定する必要があります。

### イメージ方向

- **縦** : 従来の縦長の向きにイメージを表示します。
- **横** : 横長の向きにイメージを表示します。

**ページの向き** - スキャナーにセットする原稿の向きを選択できます。**【用紙上端より】**、**【用紙下端より】**、**【用紙左端より】**、**【用紙右端より】** のいずれかを選択します。

**スキャン領域** - **【スキャン領域】** ダイアログボックスを表示します。**【スキャン領域】** オプションは、クロッピングオプションが **【ガイド幅に合わせる】** または **【ドキュメントに合わせる】** に設定されている場合に利用できます。詳細については、「**【スキャン領域】** ダイアログボックス」を参照してください。

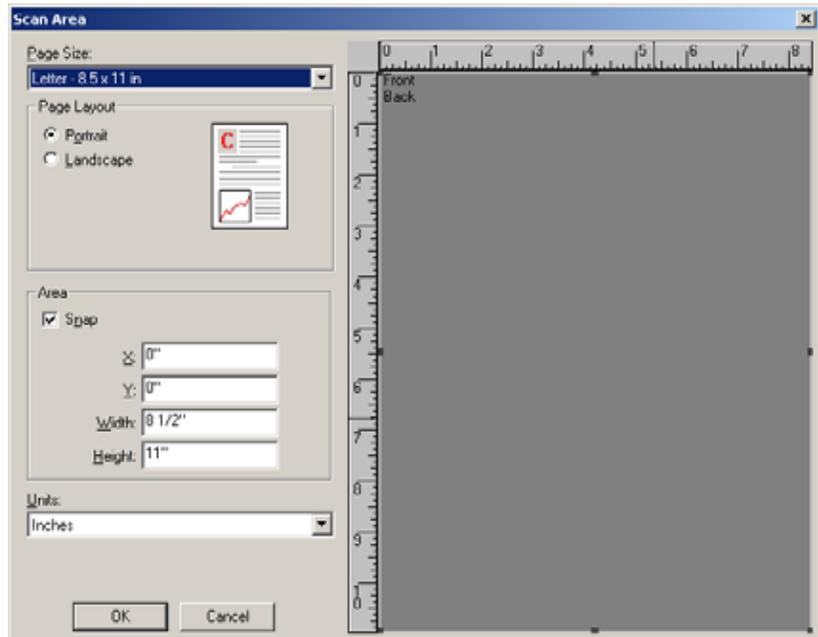
## [スキャン領域] ダイアログボックス

[スキャン領域] ダイアログボックスでは、ホストPCに返されるイメージデータのサイズを定義します。

注： [メイン] タブで選択したクロッピングオプションに基づいて、イメージモード（ [標準] または [結合] のいずれか）を選択します。 [標準] を選択した場合、定義する面（ [表面イメージ#1]、 [表面イメージ#2]、 [裏面イメージ#1]、または [裏面イメージ#2] ）を選択します。 [結合] を選択した場合、結合イメージの方向（ [表面を上]、 [表面を下]、 [表面を左]、または [表面を右] ）を選択します。すべてのカメラ選択項目に対して定義されたスキャン領域は、それぞれ独立しています。

- [スキャン領域] ダイアログボックスにアクセスするには、 [レイアウト] タブの [スキャン領域] を選択します。

注： [スキャン領域] ダイアログボックスは、選択した [メイン] タブで [ガイド幅に合わせる] または [ドキュメントに合わせる] が選択された場合に使用できます。



ページサイズ - スキャナーが最初に選択された時点でのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから各ページサイズを選択できます。

注： ページサイズはレイアウトタブにも表示されます。 [スキャン領域] ダイアログボックスで設定を変更すると、 [レイアウト] タブにも変更内容が反映されます。逆の場合も同じです。

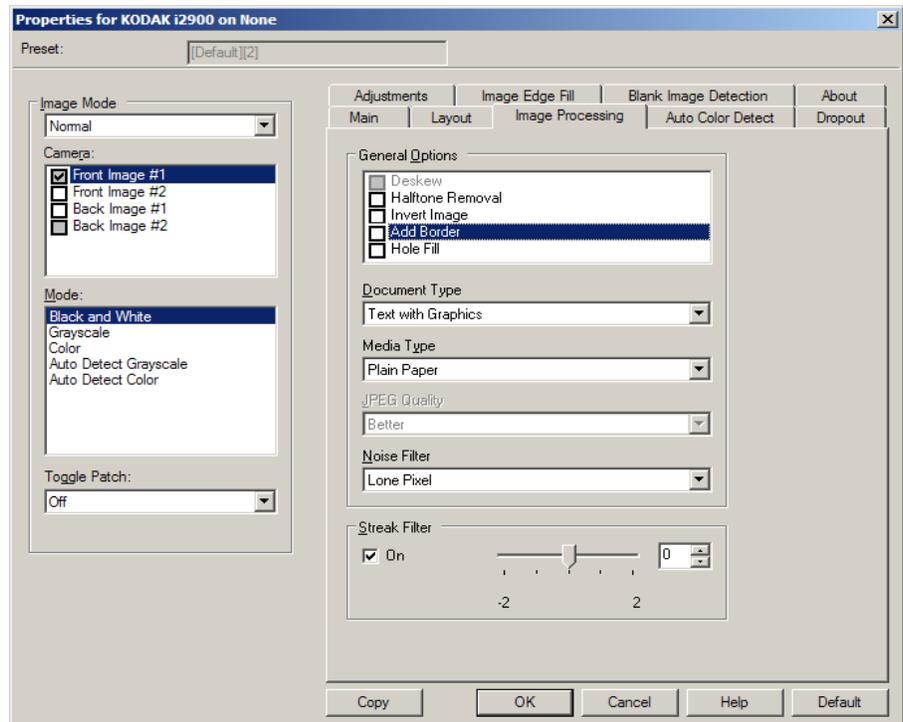
### ページレイアウト

- 縦：従来の縦長の向きにイメージを表示します。
- 横：横長の向きにイメージを表示します。

## 領域

- **スナップ** - プレビューウィンドウの大きさを 0.3175 cm (1/8 インチ) 単位で制御する場合に、このオプションを有効にします。このオプションは、**ピクセルモード**では無効になります。
- **X** : スキャナーの左端からスキャン領域の左端までの間隔を設定します。
- **Y** : スキャナーの上端からスキャン領域の上端までの間隔を設定します。
- **幅** : スキャン領域の幅を設定します。
- **高さ** : スキャン領域の高さを設定します。

**単位** - 領域定義する単位を [ピクセル]、[インチ]、[センチメートル] から選択します。



### 一般オプション

- **傾き補正** - 原稿の先端の +/-0.3度以内の傾きが自動的に補正されます。自動傾き補正では、最大45度までの傾きを検出し、200dpiで24度まで、300dpiで10度まで補正できます。このオプションは【自動】が選択された場合に使用できます。

注： イメージデータの損失を防ぐために、原稿の四隅が搬送路内側に収まっていることを確認してください。

- **ハーフトーン除去** - ハーフトーンスクリーンを使って、点描画の文字やイメージ、濃淡のある背景やカラーの背景を持つイメージ品質を高め、ハーフトーンスクリーンにより発生したノイズを効果的に除去します。
- **反転** - 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

注： ご使用のアプリケーションがイメージデータの解析/処理を誤り、希望とは異なるイメージが保存される場合は、このオプションで対応できます。

- **境界線を追加** - イメージの上下左右に、外枠を追加します。このオプションは【アグレッシブ】が選択された場合に使用できます。

**パンチ穴除去** - 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、丸、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから原稿を取り外した際に発生した多少の裂け目など）です。

### ドキュメントタイプ

- **文字**：原稿の大部分が文字の場合に選択します。
- **文字と図形**：文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **写真**：主に写真で構成された原稿の場合に選択します。

**原稿のタイプ** - スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、[普通紙]、[薄紙]、[光沢紙]、[カードストック]、[雑誌]です。

**JPEG** (Joint Photographic Editor Group) **品質** - JPEG 圧縮を選択した場合、いずれかの品質オプションを選択します。

- **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
- **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
- **高**：一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
- **最高**：小さい圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
- **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

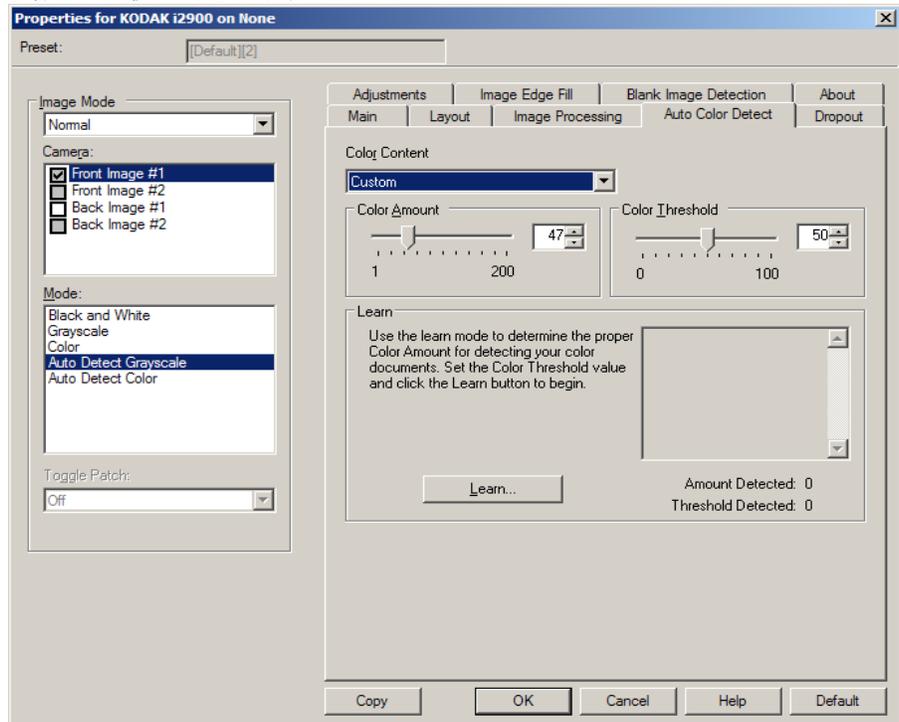
### ノイズフィルタ

- なし
- **孤立点除去**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティールール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺全域ピクセルの多数が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

**縦縞フィルタ** - イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、原稿上には存在しないにもかかわらず、まれにイメージに現れる線のことです。縦縞は、原稿上の汚れ（例：泥、塵、擦り切れた端など）が原因で発生するか、スキャナーの推奨清掃手順に従わないために発生します。スライドバーを-2～2の範囲で動かし、縦縞をフィルタする範囲を調整します。デフォルト値は0です。

## 【カラーの自動検知】 タブ

【カラーの自動検知】 タブには、以下のオプションがあります。このオプションは【グレースケールの自動検知】または【カラーの自動検知】が選択されている場合のみ使用できます。



### カラー設定

- **低**：カラー/グレースケールイメージとして保存する場合に、スキャンする原稿の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカーの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー/グレースケールイメージとして保存する場合に、【低】オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高**：カラー/グレースケールイメージとして保存する場合に、【中】オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、【カラーしきり値】や【色量】値の調整が必要になる場合があります。

- **カスタム**：手動で【色量】や【カラーレッシュヨルド】の値を調整することができます。

注：【自動カラー検知】の値を設定する場合は、まず【中】オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー/グレースケールとして返された場合は、【高】に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー/グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合には、【低】に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足いく結果が得られなかった場合は、【カスタム】オプションを選択して手動で【色量】や【カラーレッシュヨルド】を調整してください。

**色量**：原稿をカラー/グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。【色量】の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。有効値は1～200です。

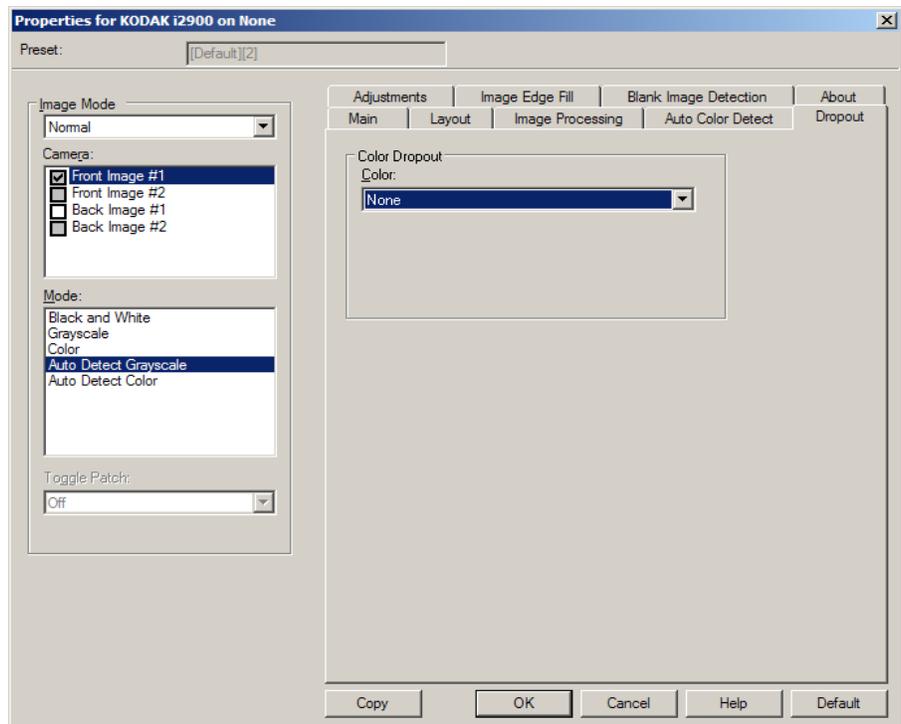
**カラーレッシュヨルド**：色量の算出時に特定の色を含めるための、カラーレッシュヨルドまたは彩度（薄青と紺色の対比など）。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効値は0～100です。

**自動設定** - スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。【自動設定】を選択する前に、入力エレベータに5枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャン、分析して推奨される【色量】を決定します。

注：計算に応じて【色量】と【カラーレッシュヨルド】のスライダが自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、【カラーレッシュヨルド】の値をマニュアルで調整してください。

## [ドロップアウト] タブ

[ドロップアウト] タブには、以下のオプションがあります。



[ドロップアウト] タブは、フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます (フォームのラインとボックスを削除)。白黒イメージの場合、これらの設定は白黒イメージを生成するために使用するグレースケール版の原稿イメージに影響します。

### 色抜き

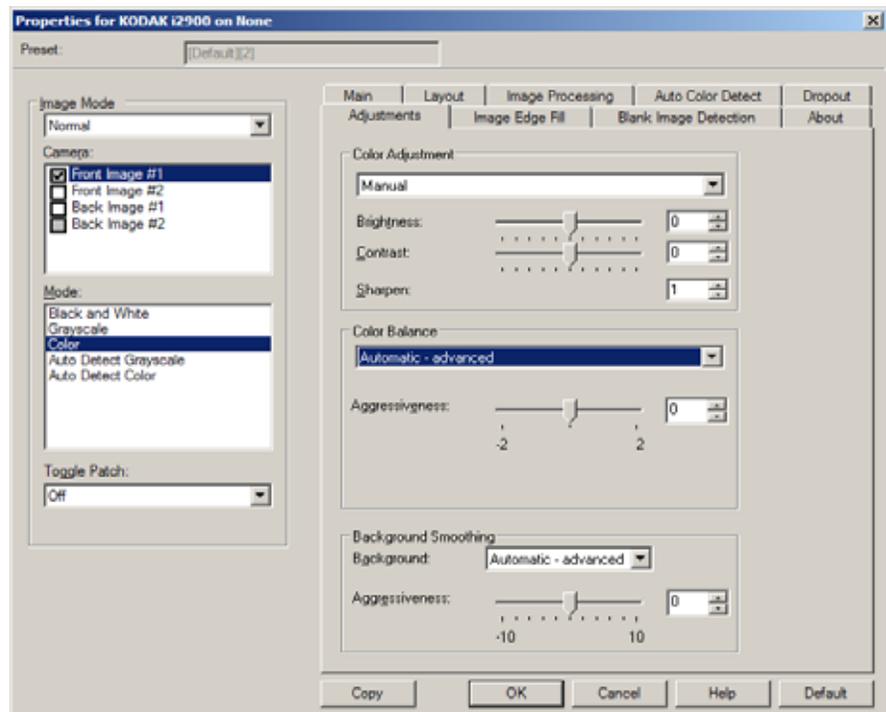
- なし
- マルチ：濃い色合い（黒や濃紺インクなど）以外のドロップカラー。
- 主色：主色をドロップアウトします。
- 赤
- 緑
- 青

**強度**：強弱を調整してドロップアウトします。値の範囲は-10～10です。デフォルト値は0です。

このオプションは、[カラー] が [マルチ] または [主色] に設定されている場合にのみ、使用できます。

## [調整] タブ

[調整] タブには、以下のオプションがあります。



スキャンモードに応じて以下のオプションを使用できます。

- 白黒モード：使用できるオプションはありません。
- グレースケールモード：[背景のスモーキング] のみ使用できます。
- カラー：すべてのオプションを使用できます。
- グレースケールの自動検知：[カラー調整] および [背景のスモーキング] を使用できます。
- カラーの自動検知：すべてのオプションを使用できます。

### カラーの調整

- (なし)
- 自動：各イメージを自動的に調整します。
- 手動：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - 明度 - カラー/グレースケールイメージの白レベルを調整します。値の範囲は-50～50です。
  - コントラスト - イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は-50～50です。
  - シャープネス - イメージ内の境界線のコントラストを増やします。値の範囲は0～3です。

## カラーバランス

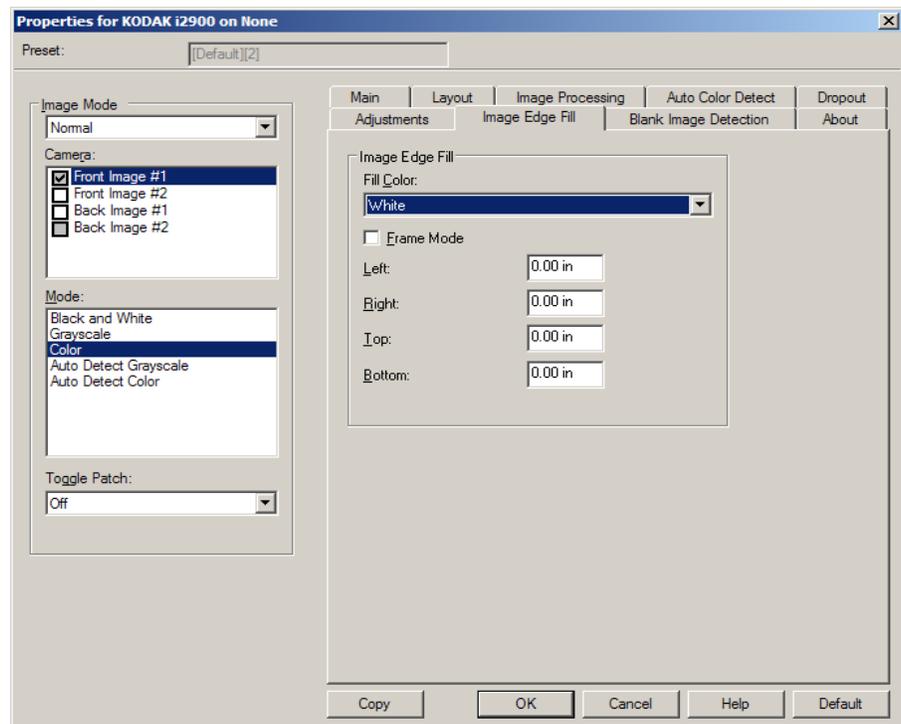
- (なし)
- **自動** : 各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。
- **自動 - 詳細** : [自動] オプションの詳細を設定したい上級者向けです。
  - **強度** - 差異の度合いを調整できます。値を大きくすることで、古くなり黄ばんだ原稿に対応することができます。値の範囲は-2～2です。
- **手動** : すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **赤** - カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。値の範囲は-50～50です。
  - **緑** - カラーイメージ中の緑色のレベルを調整します。値の範囲は-50～50です。
  - **青** - カラーイメージ中の青色のレベルを調整します。値の範囲は-50～50です。

**背景のスモーキング** - 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。

- **背景** : 以下のオプションからいずれかを選択します。
  - **なし** - 背景のスモーキングは行いません。
  - **自動** - 背景色を3色までスモーキングします。
  - **自動 - 詳細** - [自動] オプションの詳細を設定したい上級者向けです。
    - **強度** : 背景の強弱を決定できます。値の範囲は-10～10です。

## [イメージの端を埋める] タブ

最終的に出力される電子イメージの端の領域を、選択された色で埋めます。このオプションは、他のイメージ処理オプションがすべて適用された後に適用されます。



**埋める色** - 端を埋める色を選択できます。

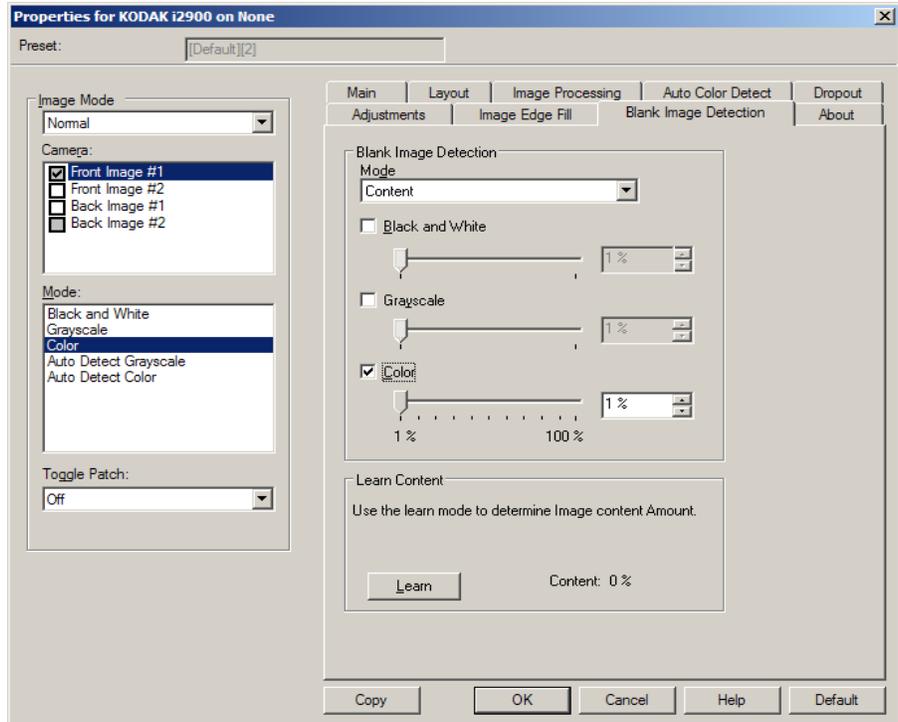
- なし
- 白
- 黒

**フレームモード** - [イメージ端埋め] オプションで選択された色と等しい量で、イメージのすべての辺を埋めます。または、[上]、[左]、[右]、および[下] に値を指定して、スキャンしたイメージの各辺の埋める量を指定することもできます。

注：[イメージの端を埋める] を使用する場合、大き過ぎる値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

## 【ブランクイメージ検出】 タブ

【白紙イメージ検出】を使用すると、スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。イメージが白紙と判断されるイメージのサイズ (KB) を指定します。設定値未満のサイズのイメージは作成されません。このオプションを使用する場合は、削除するイメージの種類 (白黒、グレースケール、カラー) ごとに白紙と判断されるイメージサイズを指定する必要があります。これらのフィールドに値を入力しない場合は、すべてのイメージが保持されます。



### モード

- **オフ** : すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **サイズ** : スキャンアプリケーションに送信されるイメージのサイズに基づいて、(他のすべての設定が適用された後に) 白紙であるかどうか判断されます。
- **内容** : イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。白黒、グレースケール、カラーを選択し、スキャナーが白紙と判断する最大の内容量を選択します。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、**0 ~ 100** です。

**自動設定** - スキャンされる原稿に基づいてスキャナーが内容量を判断します。この機能を使用するには、【自動設定】をクリックします。

注 : 自動設定モードは表面と裏面の両方で同時に適用できません。適用する面を選択する必要があります。

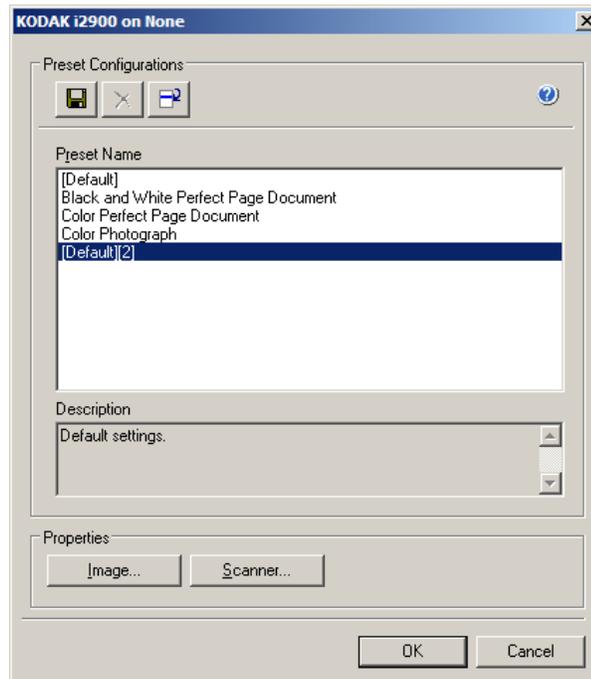
## [バージョン情報] タブ

バージョン情報タブはスキャナーとドライバの情報を表示します。



## スキャナー設定の実行

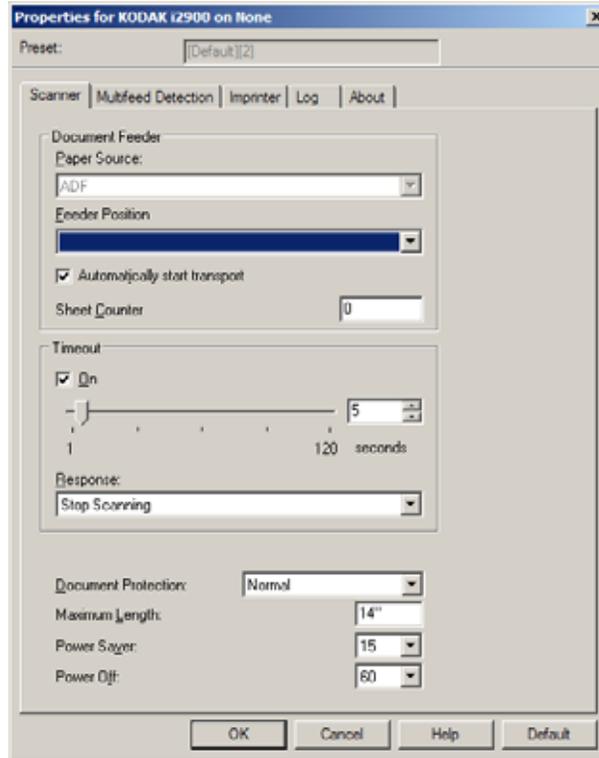
ISIS ドライバからスキャナー設定を開くには、Scan Validation Tool を前述の手順で開き、ISIS ドライバにアクセスします。



- [スキャナー] をクリックして、スキャナーを設定できます。以降の章ではスキャナー設定の詳細や手順について説明します。イメージ設定の手順については、前述の「イメージ設定の実行」の章を参照ください。

## [スキャナー] タブ

[スキャナー] タブには、以下のオプションがあります。



### ドキュメントフィーダ

#### スキャン方法

- **ADF** : 入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **フラットベッド** : スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

#### フィーダ位置

- **標準** : まずドキュメントフィーダ上の原稿を確認します。入力トレイに原稿がない場合は、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

**自動的に転送を開始** - このオプションが選択されると、スキャナーは原稿が入力エレベータにセットされるまで最長 10 秒待機します。

**用紙枚数カウンタ** - スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。スキャナーによってカウントアップされ、イメージヘッダにカウンタ値が送られます。

**タイムアウト** - 最後の原稿がフィードされてから、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を選択できます。このオプションはオフにすることもできます。

**レスポンス** - ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを指定します。

- **スキャンの停止** : スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。
- **スキャン一時停止** : スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します (フィーダを停止します)。スキャナーの**開始/再開**ボタンを押すと、スキャンを再開します。スキャナーの**停止/一時停止**ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

**ドキュメント保護** - スキャナーへの入り方が正しくない原稿をどの程度まで検知するかを選択できます。これは、原稿がスキャンできるように正しく整理されていない (ホチキス、紙クリップの付いたドキュメント) 場合に発生します。

- なし
- **最小** : スキャナーが頻繁に停止し、検知させたくない場合はこのオプションを選択します。  
注 : 検知されるまでに原稿が破損する可能性があります。
- **通常** : 原稿の破損を抑え、不必要にスキャナーを停止しないので、このオプションをお勧めします。
- **最大** : 原稿の破損を最小限に抑えるにはこのオプションを選択します。  
注 : スキャナーが不必要に停止する場合があります。

**最長原稿サイズ** - 原稿セット内で最長の原稿サイズの値を設定します。

注 :

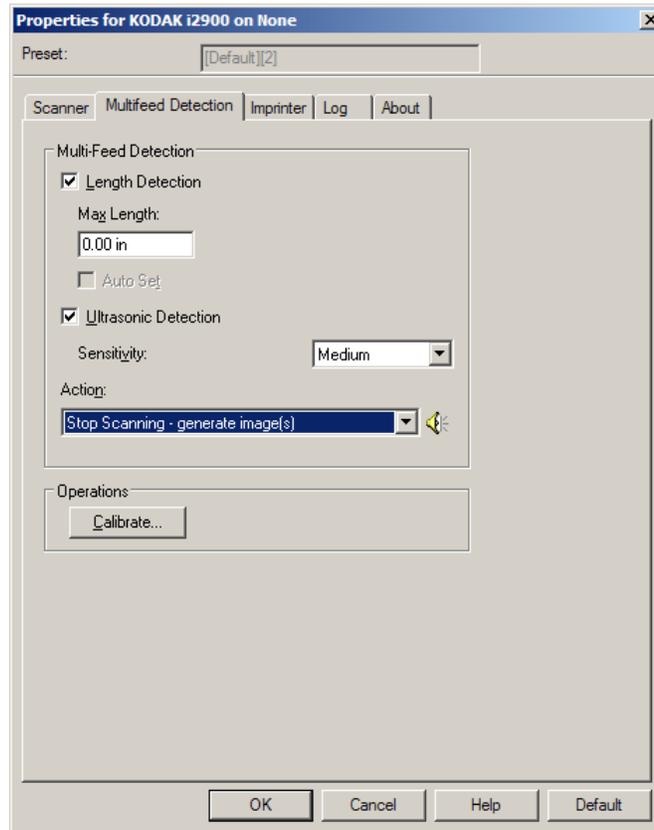
- この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。[領域 - 幅]、[高さ]、[プリンタ - 先端からのオフセット]、[重送検知 - 長さによる探知]
- 長尺原稿は (解像度、カラー、グレースケールなど) すべての設定の組み合わせをサポートしません。柔軟にアプリケーションに対応できるように、長さを超えた原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺原稿の場合は、スキャナーの処理能力が低下する場合があります。

**節電モード** - スキャナーが操作されていないときにアイドル状態に移行するまでの時間 (0 ~ 240 分) を設定できます。デフォルトは 15 分です。

**電源オフ** - スキャナーが操作されていないときに電源がオフになるまでの時間 (0 ~ 240 分) を設定できます。

## [重層検知] タブ

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送検知はホッチキスで綴じられた原稿、糊のついた原稿、静電気を帯びている原稿が原因で発生します。[重層検知] タブには、以下のオプションがあります。



**長さを検知** - 有効にすると、重送検知されずにスキャンされる最長原稿サイズを選択できます。同じサイズのドキュメントのスキャン時に重送を検知するため、長さ検出を使用します。たとえば、A4 (8.5x11 インチ) の原稿を縦でスキャンする場合は、**[最大長]** フィールドに 28.57cm (11.25 インチ) と入力します。最大の値は 35.56 cm です。

- **自動セット** : 現在選択されている用紙サイズより 1.27 cm 長い値を自動的に最大の長さとして設定します。

**超音波検知機能** - 重送検知機能を設定する場合に、このオプションを選択します。

- **感度** - 搬送路に複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを、検知レベルを指定します。重送検知機能は、原稿との隙間を検出することにより、重なった原稿を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を認識します。

- **低** : レベルが低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性がもっとも低くなります。

- **中** : 厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、ほとんどのラベルは重送とは認識されません。
  - **高** : 最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が75.2 g/m<sup>2</sup>のボンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に向いています。
- **動作** - 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。
    - **スキャンの続行** : スキャナーはスキャンを継続します。
    - **スキャンの停止** : スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
    - **スキャンの停止 - イメージ生成** : スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。重送原稿のイメージが生成されます。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
    - **スキャン一時停止** : スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します (フィーダを停止します)。スキャナーの**開始/再開**ボタンを押すと、スキャンを再開します。スキャナーの**停止/一時停止**ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。
    - **スキャン一時停止 - 用紙を搬送部に残す** : スキャンがただちに停止しませんが (搬送路をクリアしません) が、スキャンアプリケーションは、次のイメージの取得を待機します (フィーダを停止します)。スキャンセッションを開始する前に、搬送路から原稿を取り除きます。スキャナーの**開始/再開**ボタンを押すと、スキャンを再開します。スキャナーの**停止/一時停止**ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。
    - **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す** : スキャンを直ちに停止し (搬送路に残ります)、スキャンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。

スピーカーアイコンをクリックすると、[開く] ダイアログボックスが表示され、アラーム用の警告音 (.wav ファイル) を選択できます。

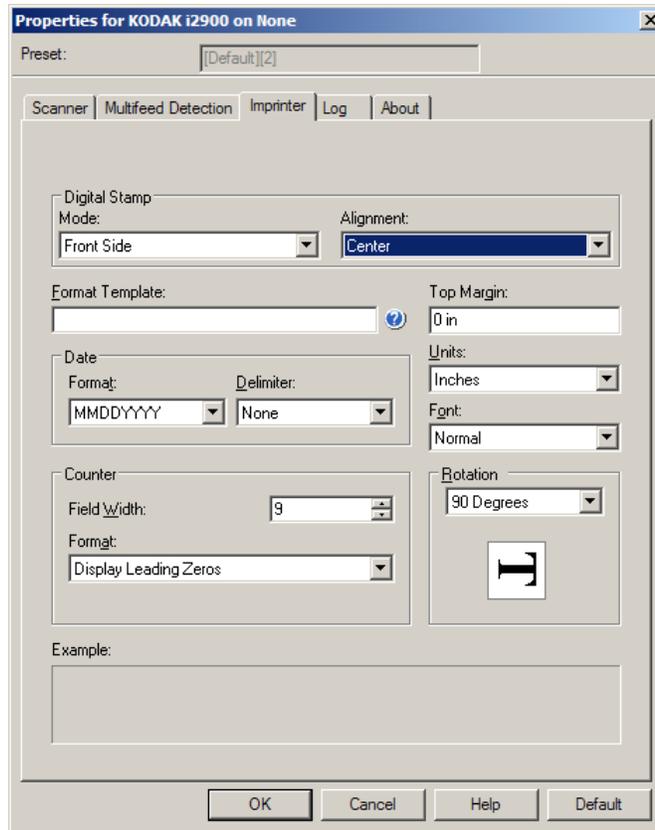
**キャリブレーション** - [キャリブレーション] ウィンドウを表示します。このウィンドウからは **UDDS** キャリブレーションを実行できます。

注 : キャリブレーションは頻繁に行う必要はなく、また、お勧めもありません。サービス&サポート担当者の指示があった場合のみキャリブレーションを実行します。

## [インプリンタ] タブ

プリンタは、スキャナーの最高速度で動作します。日付、時刻、ドキュメントカウンタ、カスタムメッセージを印字できます。

リテラル（静的）情報（バッチ名、オペレータ名など、どの原稿に対しても同じになる情報）とダイナミック（動的）情報（ドキュメントカウンタなど、スキャンするページごとに異なる情報）の両方を組み合わせて設定できます。リテラル（静的）フィールドはスキャンソフトウェアによって制御されます。ソフトウェアからユーザが入力できる情報をプリンタに送信できます。



**デジタルスタンプモード** - このオプションを使用するには **[表面]** を選択します。

**配列** - 印字文字列を配置したい場所を選択します。オプションには **[左]**、**[中央]**、**[右]** があります。

**フォーマットのテンプレート** - フォーマットテンプレートは印字文字列を構築するために使用されます。印字文字列はドキュメントが搬送路を通過する際に印字される文字です。スキャン前にドキュメントに印字されるため、印字文字列がイメージに反映されます。印字文字列の最大文字数は40文字です（スペースを含む）。

**日付** - 印字文字列に日付を追加する場合は、以下のフォーマットから選択します。

- **フォーマット** : MMDDYYYY、DDMMYYYY、YYYYMMDD、YYYYDDD、DDD。
- **区切り文字** : 次のいずれかのセパレータを選択します。スラッシュ (/)、ダッシュ (-)、ドット (.)、スペース、なし。例 : 08/24/2010、08-24-2010、08.24.2010、08 24 2010、08242010 (なしの場合)。

**カウンタ** - 印字文字列にカウンタを追加する場合は、以下のオプションが使用できます。

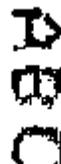
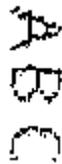
- **フィールドの幅** : ドキュメントカウンタの桁数を定義します。値は、1～9までの範囲です。
- **フォーマット** : カウンタ値がフィールドの桁数以下の場合、カウンタの表示形式を設定できます（以下の例はフィールドの桁数が3、カウンタ値が4の場合です）。次のオプションを選択できます。
  - **リーディングゼロの表示** (デフォルト) : "004"
  - **リーディングゼロの削除** : "4"
  - **リーディングゼロの圧縮** : " 4"

**上端** - 原稿の上端から印字文字列までの距離を定義します。テキストボックスに適切な値を入力します。

注 : 情報がすべて印字されていなくても、印字は原稿の後端から 6.3 mm のところで自動的に停止します。

**単位** - インチ、センチメートル、ピクセルのいずれかを選択します。

- **フォント** - 情報を印字する方向を選択できます。
  - **書式** : 使用できる文字の書式は、標準、大文字、および太字です。



標準 : 90 度回転

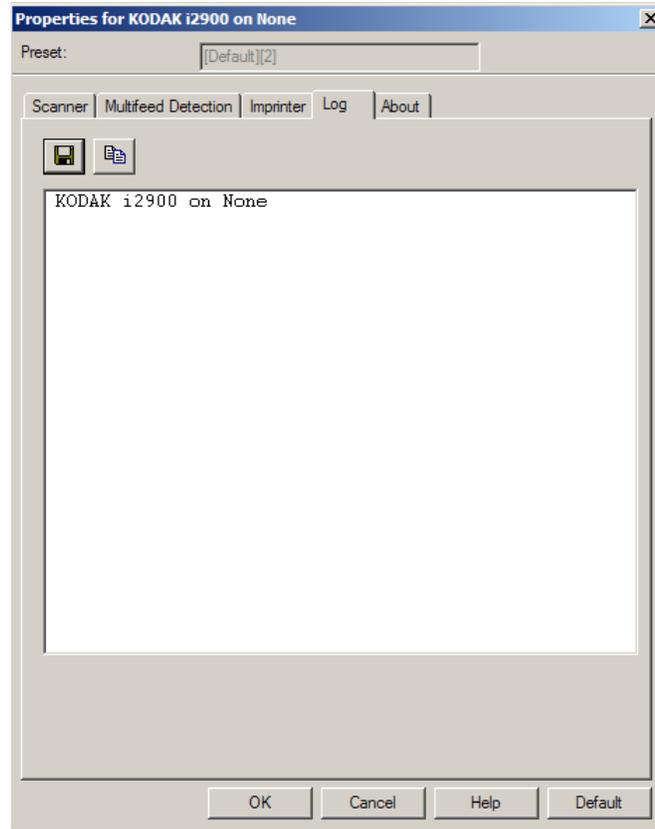
大文字 : 90 度回転

太字 : 90 度回転

回転 - 0 または 90 度のいずれかを選択できます。

## [ログ] タブ

[ログ] タブには、これまでに発生したエラーが表示されます。



オペレータログと測定値ログのデータは表示したり、[保存]アイコンをクリックして保存したり、データをクリップボードにコピーしてドキュメントに貼り付けることもできます。

# Kodak